

# 中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想（案） 【概要版】

皆さんからのご意見を募集します！

～パブリックコメントの実施について～

募集期間：令和2年（2020年）1月31日（金）から  
令和2年（2020年）3月3日（火）まで 【必着】

札幌市では、現在検討が進められているMICE・ホテル複合施設の敷地とその周辺を「中島公園駅周辺地区」と位置づけ、札幌駅前通南端の新たな拠点形成に向けたまちづくりを進めていきます。その第一歩として、まちづくりの方向性を示し、市民の皆さんをはじめ様々な関係者と共有するため「中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想」を策定します。

このたび、基本構想(案)として整理しましたので、広く市民の皆さんにお知らせし、ご意見を募集いたします。

市民の皆さんと一緒により良いまちづくりにしていくため、多くの方からのご意見をお待ちしております。

お寄せいただいたご意見を参考とし、令和2年（2020年）3月頃に基本構想を策定する予定です。

※ いただいたご意見については、個別の回答はいたしません。ご意見の概要とそれに対する市の考え方と併せて、基本構想でご紹介します。

## 資料の配布場所

以下の場所で資料の配布を行っております。

- 札幌市役所本庁舎 5階 まちづくり政策局都心まちづくり推進室都心まちづくり課  
2階 市政刊行物コーナー  
1階 ロビーパンフレット台
- 各区役所総務企画課広聴係
- 各まちづくりセンター（豊水、西創成、曙）

令和2年（2020年）1月

札幌市

市政等資料番号  
01-B02-19-2586

# ご意見募集要領

## 1 ご意見募集期間

令和2年(2020年)1月31日(金)から令和2年(2020年)3月3日(火)まで【必着】

## 2 ご意見の提出方法

### (1) ご郵送またはFAXの場合

本資料末尾に添付の「意見記入用紙」に記載し、「4 問合せ先」に送付ください。

### (2) 電子メールの場合

本基本構想のご意見と分かるよう、メールタイトルや本文などに「中島公園駅周辺地区まちづくり基本構想」と明記の上、下記のメールアドレスに送付ください。

[ki.downtown@city.sapporo.jp](mailto:ki.downtown@city.sapporo.jp)

### (3) ホームページの意見募集フォームから送信する場合

<http://www.city.sapporo.jp/kikaku/downtown/project/nakajimakoenekisyuhenchi.ku.html> からアクセスしてください。

### (4) 直接ご持参いただく場合

本資料末尾に添付の「意見記入用紙」に記載し、まちづくり政策局都心まちづくり推進室(住所:札幌市北1条西2丁目札幌市本庁舎5階)までお持ちください。

※ 電話・口頭によるご意見は受け付けておりません。

※ ご意見の提出にあたっては、お名前、ご住所、ご年齢をご記入ください。

(ご意見等の概要を公表する際には、お名前とご住所などは公表いたしません。)

※ ご意見に対する個別の回答はいたしません。予めご了承ください。

## 3 プラン(案)の配布・公表場所

- 札幌市役所本庁舎5階 まちづくり政策局都心まちづくり推進室都心まちづくり課  
2階 市政刊行物コーナー  
1階 ロビーパンフレット台

○各区役所総務企画課広聴係

○まちづくりセンター(豊水、西創成、曙)

○札幌市ホームページ

「市政情報」>「都市計画・再開発」>「都心のまちづくり」>「中島公園駅周辺地区のまちづくり」

<http://www.city.sapporo.jp/kikaku/downtown/project/nakajimakoenekisyuhenchi.ku.html>

## 4 問合せ先

札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室都心まちづくり課

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市役所本庁舎5階

電話：011-211-2692、FAX：011-218-5112

電子メールアドレス：[ki.downtown@city.sapporo.jp](mailto:ki.downtown@city.sapporo.jp)

1. 本構想の目的と位置づけ

中島公園駅周辺地区(右図参照)には、中島公園や鴨々川、人形劇場こぐま座など、地区の歴史や文化を醸成してきた**特徴的な地域資源が存在します**。

また、札幌都心の主要な都市骨格軸である「札幌駅前通(にぎわいの軸)」の南端に位置しており、**都市観光・交流の場の強化による新たな拠点の形成**が期待されています。

さらに、MICE・ホテルの複合施設の整備に向けた検討が進められており、今後、**多くの市民・来街者が当該地区を訪れ、交流し、憩い、回遊**することが見込まれます。

こうした背景を踏まえ、**本構想は、新たな拠点形成に向けたまちづくりの方向性を示し、市民をはじめ様々な関係者と共有**することを目的として策定します。

なお、本構想は第2次都心まちづくり計画等を上位計画とし、**今後のまちづくりの取組や個別の開発誘導を進める際の指針**と位置付けるものです。

2-1. 地区及び周辺の現況

中島公園は市街地の中で特に広大かつ密度あるみどりの環境を形成しており、さらに鴨々川、寺社を中心に地区及び周辺にはまとまったみどりが存在します。同時に、これらはオープンスペースとして空間的なゆとりをもたらす地域資源ともなっています。

また、コンサートホールKitaraをはじめとした文化施設や、将来的なMICEの開催を支える宿泊機能の集積も見られ、その他に、(仮称)札幌博物館についても、中島公園を建設候補地として検討が進められています。



まとまった緑の分布

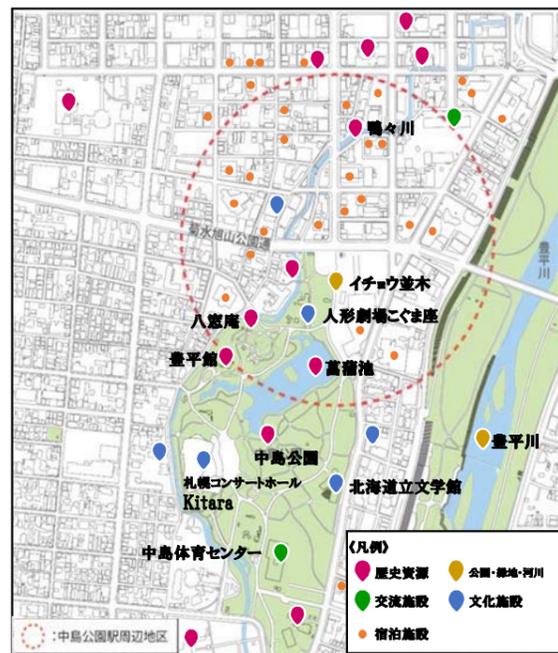


※中島公園駅周辺地区  
地下鉄中島公園駅を中心に半径約400m(徒歩5分圏内)を構想対象地区とした

○ 中島公園、鴨々川沿いなど、**豊かなみどりと空間的なゆとり**

○ 歴史資源や文化施設といった**地域資源の立地**

○ MICE開催を支える宿泊機能の集積



地域資源の立地

2-2. 中島公園の変遷

現在の中島公園が位置する土地は、豊平川の本流に接し、そこから分岐した鴨々川が流れ、藻岩山への眺望に優れる土地であったことから、**明治15(1882)年頃に地域から公園化の要望があったことに端を発し、明治20(1887)年に「中島遊園地」として整備**されました。さらに、**明治43(1910)年に長岡安平の設計に基づく第1期工事が行われ、公園の主要な部分が整えられました**。

その後、様々な博覧会会場としての利用や市民の行楽地として子どもたちに人気の施設の整備が進み、さらに平成の再整備においては、都心の緑のオープンスペースとして機能を純化させつつ、**歴史・文化・芸術が水と緑に融合する公園とすることを目標に整備が進められ**、現在に至ります。

『こどもの遊び場の役割』

- 人形劇場こぐま座(1976年築)・中島児童会館(1985年築)

中島児童会館は、日本初の公設の屋内型児童厚生施設として、また、こぐま座も日本初の公設の人形劇専門劇場として、札幌の児童文化発祥の歴史を持ち、時代を越え多くの子ども達に親しまれています。



こぐま座

- 子供の国

北海道大博覧会の際に計画された子供の国は、多くの人々に親しまれてきましたが、1995年に円山動物園へ移転しました。



子供の国

『中島公園平成の再整備』(1995~2000年度)

「中島公園再整備基本計画(1994年)」に基づく再整備においては、全体の目標だけでなく、エリア毎の方針も定め、整備を実施しました。

- 公園北口付近を含むエリアの方針は以下の通りです。
- 札幌駅前通南北軸の通景を受ける公園の北入口広場
- 水と緑を介し公園南部へと移行



平成の再整備におけるエリア設定

その他のエリアでは、「開放的な庭園空間」、「広がりを持った芝生広場」といった方針で整備が進められました。

2-3. 南10西3地区(現札幌パークホテル敷地)におけるMICE・ホテル複合施設の整備

南10西3地区(現在のパークホテル敷地)において、本市の新MICE※施設とハイグレードホテルが一体となった複合施設を整備する再開発が計画されています。

当該施設は、本市における**大規模MICE開催の中核施設と札幌にはないハイグレードなホテル**の複合施設となり、この施設を拠点に**当地区を訪れる来街者の増加と高い経済波及効果**が期待されます。

さらに、地区全体のまちづくりの観点から、**アフターMICE※の魅力向上や施設単体では対応できない大規模なMICEの開催に必要な機能を地区全体で誘導**していくことで、**MICE・ホテル複合施設の整備効果を一層高める**ことが求められます。

※ MICE: 多くの集客が見込めるビジネスイベントなどの総称で、Meeting(企業内会議)、Incentive travel/tour(報奨旅行)、Convention(国際会議・学術会議)、Event/Exhibition(イベント/展示会)の頭文字をとった造語  
 ※ アフターMICE: 会議の終了後に催される行事やイベント、または自由行動としてのショッピングや娯楽等の活動のこと



1階配置、平面イメージ  
(「(仮称)新MICE施設整備基本計画」より)

3. 中島公園駅周辺地区のまちづくりの方針

■まちづくりのコンセプト

「地域に培われた歴史・文化」と「新たな集客・交流機能」  
が調和した都心南端の拠点の形成

当該地区が有する中島公園や鴨々川といった特徴的な資源を活かしたまちづくりに取り組むとともに、地区全体でMICEの開催を支える機能の誘導にも取り組みます。MICEがもたらす経済的な波及効果が魅力的な開発を誘発し、都市機能が更新されていく好循環を生み出し、市民や来街者が憩い、まち歩きを楽しみ、にぎわうまちを目指します。

■取組方針（エリア別）

当該地区内の特徴的な地域資源の存在や大規模な土地利用転換の可能性などから、現時点で特にまちづくりを推進すべき4つのエリアを抽出し、より具体的な取組の方針を定めます。

【①札幌駅前通エリア】

「通りへのにぎわいの表出による南北主動線の高質化」

- (1) 沿道の建物低層部には通りに開かれた商業・交流機能などを誘導し、**通りへのにぎわいの表出**を図るとともに、目抜き通りとして、沿道の街並み景観に配慮した象徴的な軸空間の形成を目指します。
- (2) 鴨々川と駅前通の交差点については、滞留空間等の機能の充実により、**水辺を感じる憩いとにぎわいの交わる空間の形成**を目指します。

【②鴨々川沿いエリア】

「鴨々川などの地域資源を活かし歩いて楽しめる空間の形成」

- (1) 既存の散策路の活用や川を意識した空地等の確保を通じて、**川沿い空間の利活用**を図り、中島公園へつながる緑のネットワークの強化や歩いて楽しめる空間の形成を目指します。
- (2) 鴨々川周辺に立地する寺社、開拓の面影を残す個性的な歴史資源等を活かし、**札幌の歴史や文化に触れる特徴的なまちづくり**を目指します。

【③中島公園北口周辺エリア】

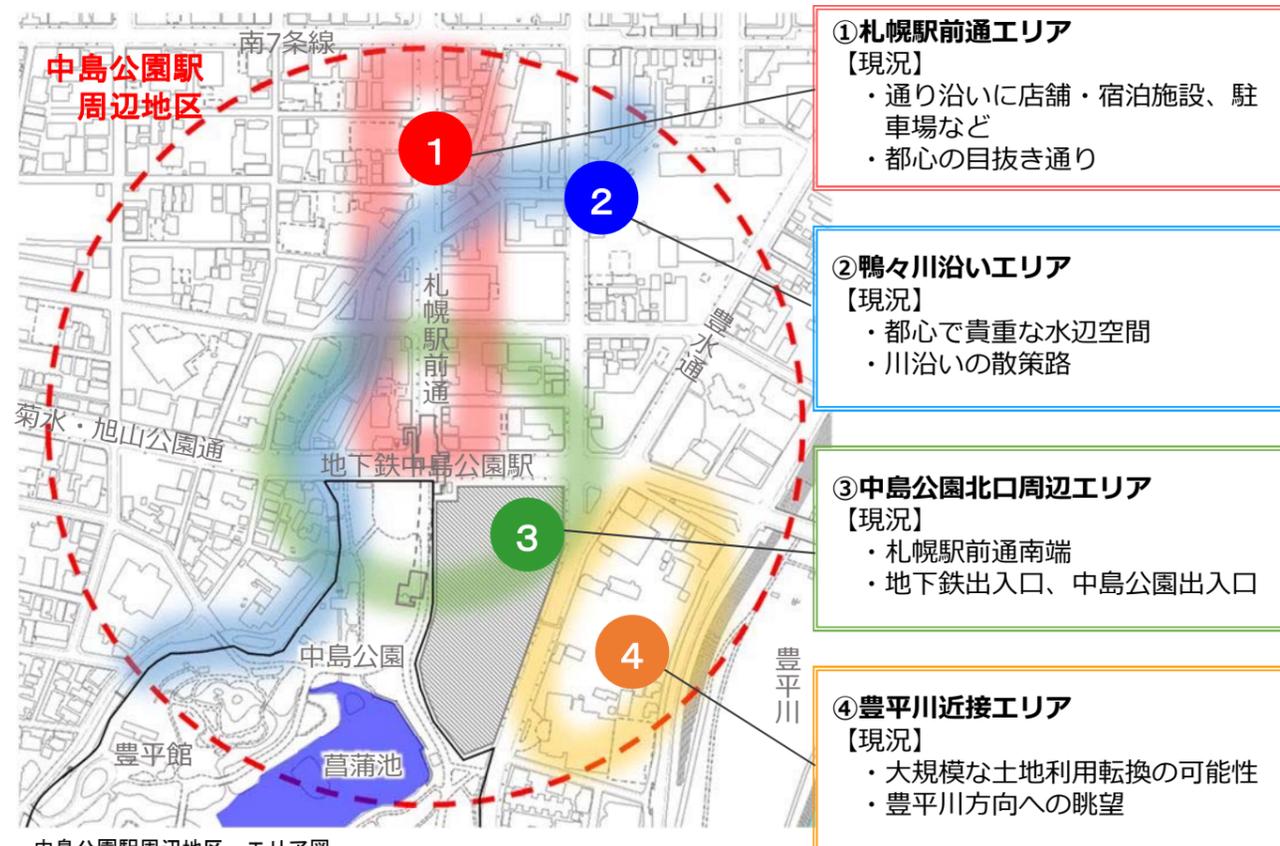
「公園とにぎわい機能が融合する、地区の玄関口としての環境整備」

- (1) 地下鉄出入口や中島公園の入口を含む地区の玄関口として、すすきの方向から続く都市的なにぎわい、MICE・ホテル複合施設整備により強化される交流機能及び豊かなみどりによる憩いの空間が調和した**良好な空間形成、機能の誘導**を目指します。
- (2) 地下鉄中島公園駅を中心に周辺への**歩行者の回遊性の向上**を目指します。

【④豊平川近接エリア】

「新MICE施設と連携・協調する都市機能や空間の誘導」

- (1) 大規模な土地利用転換にあわせて、**新MICE施設と連携・協調するにぎわい・交流機能や質の高い宿泊機能**など**地区全体での大規模MICE開催を支える機能**の誘導を目指します。
- (2) 中島公園北口周辺エリアと機能や空間、デザイン面でつながりを感じることできる建物や、豊平川方向への眺望を楽しむことのできる建物の誘導を目指します。



中島公園駅周辺地区 エリア図

■取組方針（地区全体）

エリアを限定せず、地区全体で取り組むべき内容について、方針として定めます。

・地区に点在する地域資源の活用と回遊性の向上

点在する地域資源を活用するため、情報発信などを行うとともに、誰もが快適にまち歩きを楽しめる歩行空間を確保し、地区の回遊性向上を図ります。

・安全安心で環境にもやさしいまちの実現

旅行者を中心とした帰宅困難者が大量発生した経験や小中学校が少ない当地域における避難者対応の必要性、集中豪雨による浸水被害のリスクの高まりを踏まえ、各宿泊施設から帰宅困難者を発生させない取組や、防災性・事業継続性の高い施設の誘導など、強靱化に資する取組を進めます。また、建替の際には分散電源の整備や省エネ化を図るなど、環境にやさしいまちを実現します。

・地区全体でのMICEの開催を支える機能の充実

地区全体での大規模MICE開催を支える機能の充実を図るため、民間開発の動向等を的確にとらえ、MICE開催に対応した諸室や質の高い宿泊機能を有した施設を誘導するとともに、アフターMICEや夜間観光の魅力向上に資するコンテンツ等のMICE参加者が楽しめる環境の充実を図ります。

■地区全体のまちづくりの進め方

- ・本構想を地域の関係者の方々と共有を図り、具体的なまちづくりの検討を進めます。
- ・民間開発の動向を的確にとらえ、官民連携によるまちづくりを進めます。
- ・地区のリーディングプロジェクトとして「先導空間」の検討・整備を進めます。

4. 先導空間整備の方向性

■先導空間の範囲及び現況

MICE・ホテル複合施設敷地と中島公園北口部分を、中島公園駅周辺地区全体のまちづくりを牽引する「先導空間」と位置づけます。



○主要な公共施設

こぐま座・中島児童会館、公共駐輪場  
地下鉄出入口(南北の出入口が個別独立)

○存在する機能・空間

各種広場(遊具等)、イチョウ並木

○その他の状況

官民境界における柵や生垣により敷地の分断



■先導空間整備のコンセプト

MICE・ホテル複合施設の集客・交流機能とみどりあふれる憩いが調和する魅力的な空間の創出



※現時点のイメージであり、各施設の配置や規模などについて、今後変更の可能性があります

■想定される活用例

<平常時>

- ▶ 芝生広場や店舗で、お茶を飲みながらの読書や昼寝など、豊かな時間を過ごす
- ▶ 展望テラスからは、菖蒲池や藻岩山を眺め、イチョウ並木や木々の移ろいから、札幌の四季を感じる
- ▶ 公園を訪れる子どもは、遊具で遊び、芝生広場でかけまわる
- ▶ こぐま座で人形劇を楽しんだ後、公園内で親子でお弁当
- ▶ 園路沿いの店舗では、イチョウを眺めながらのランチ



展望テラス眺望イメージ



参考事例：南池袋公園

<大規模イベント開催時>

- ▶ MICE・ホテル複合施設内でのイベントと連携し、展望テラスや公園内の広場で屋台や展示
- ▶ 既存のイベント等は先導空間全体で展開  
展望テラスから広場のイベントを望む
- ▶ 札幌まつりでは、園路沿いの出店で買った食べ物片手に展望テラスで休憩
- ▶ MICE参加者は地下の接続部を通過して新MICE施設へスムーズに到着  
休憩時間は公園内や周辺のまちを散策

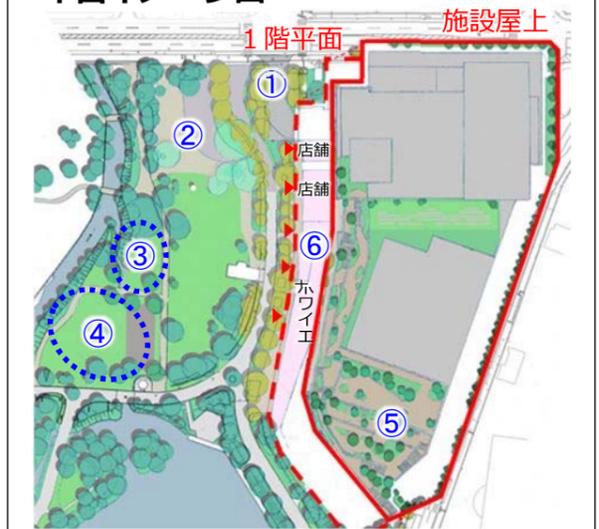
既存イベントの様子  
(ゆきあかり・巨大人形劇)



<災害発生時>

- ▶ 地震発生時は帰宅困難者や避難者を受け入れ
- ▶ 水害の際には緊急的に展望テラスへ避難も可能

平面イメージ図

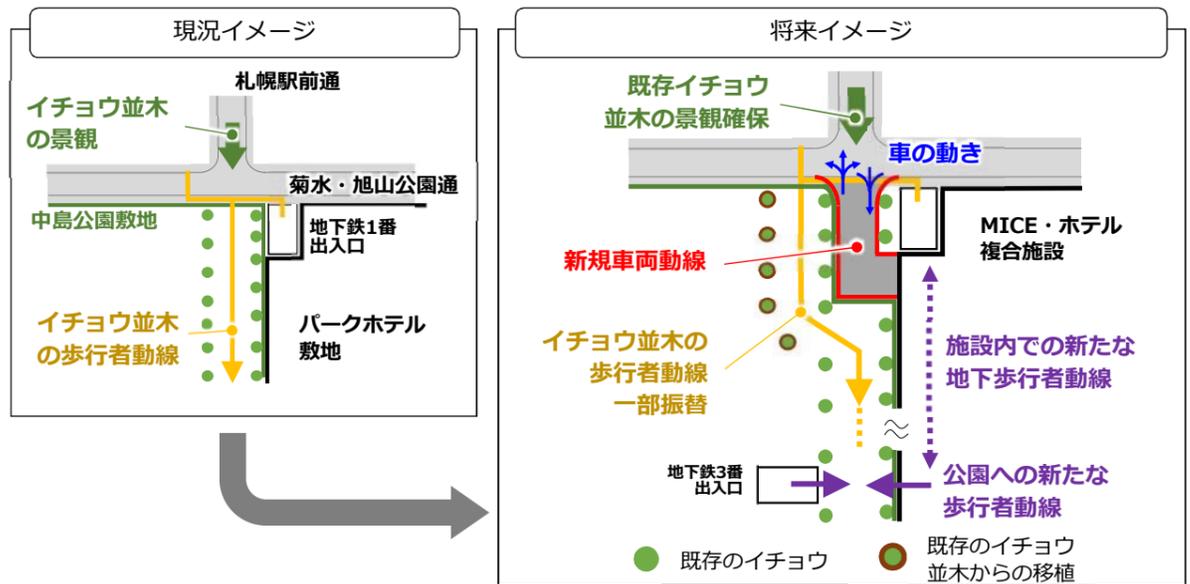


- ① 車両動線の整備
- ② 公共駐輪場の移設
- ③ 空間の魅力を高める利便施設
- ④ 子どもが集い、文化芸術に触れる場
- ⑤ 展望テラス
- ⑥ 敷地内貫通通路(地下鉄駅から公園への動線)

■ 検討の与条件

○ 車両動線の必要性

- ・新MICE施設整備に伴い、車で訪れる施設利用者が一定数予想
- ・歩行者の安全確保と周辺交差点の一部で生じる渋滞解消のための対策を検討
- ⇒イチョウ並木の間に車両動線を整備することにより、駅前通南端の十字交差点化
- ⇒施設の地下駐車場の整備により公園をはじめとした周辺施設利用者の利便性向上
- ⇒車両動線整備や施設整備において、支障となるイチョウは、移植による保全を前提
- ⇒駅前通からのイチョウ並木の景観の維持及び歩行者動線としてのイチョウ並木の一部振替



○ 中島公園北口部分の整備の方向性

- ・中島公園再整備基本計画の「北入口広場」としての位置づけを踏襲
- ・「これまで担ってきた役割・機能」、「新MICE施設の隣接地への整備」、「民間活力の導入などによる公園の利活用に関する考え方の変化」等、時代や周辺環境の変化を踏まえ、先導空間整備の方向性を整理

中島公園再整備基本計画 「北入口広場」

- これまで担ってきた役割・機能の継承
- 新MICE施設の隣接地への整備決定
- 公園の利活用に関する考え方の変化

先導空間整備の方向性

■ 整備の方向性

方向性1：中島公園の新たな顔づくり

～MICEと連携可能な新たな広場空間、居心地の良い滞留空間の整備

- 人の流れを呼び込み、公園の顔となるエントランス空間の整備
- 既存のイベントの開催はもとより、MICEと連携したイベントを開催可能とする設備・機能の設置と広場空間の質の向上
- 先導空間内に新たに整備される店舗機能と連携し相乗効果を発揮する芝生広場などの整備

方向性2：誰もが楽しめる公共的空間の拡大と活用

- 新MICE施設のひな壇状の屋上を活用して整備される、菖蒲池や藻岩山を望む立体的な滞留空間（展望テラス）など、再開発事業の敷地内に誰もが利用可能な新たな公共的空間を整備
- 公共駐輪場の移設により、公園として活用可能な空間の拡大
- こぐま座、中島児童会館の配置見直しについても検討を深め、さらなる空間の確保を目指す

方向性3：子どもを中心とした機能や空間の再構築

- こぐま座及び中島児童会館が担ってきた役割を踏まえ、子どもが集い遊ぶ場や文化芸術に触れる情操教育の場といった機能を再構築
- MICE・ホテル複合施設に集まる子どもたちも利用可能な機能や空間の確保

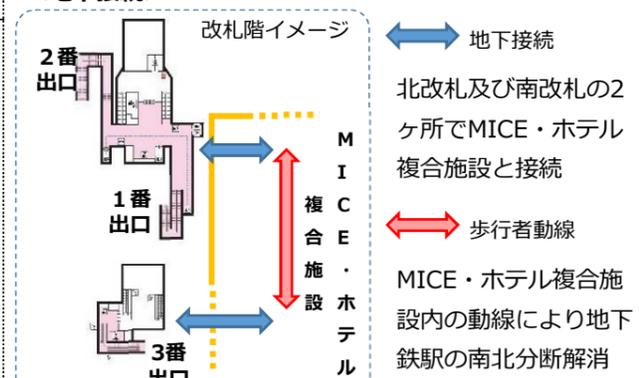
方向性4：公園とMICE・ホテル複合施設の連続性・一体性の確保

～先導空間全体で質の高いMICEの開催を支える空間整備・機能の連携

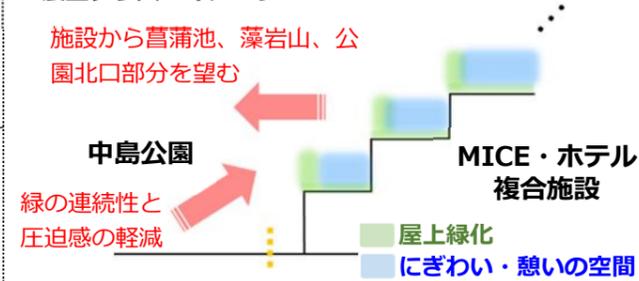
- 地下鉄駅との地下接続や地上部の東西貫通通路の整備と敷地東面の景観配慮、歩道沿いの緑化により、地下鉄駅とMICE・ホテル複合施設、公園、周辺街区をつなぐ快適かつ重層的な、歩行者動線の整備
- 公園とMICE・ホテル複合施設の分断要素を無くし、施設利用者、来園者の両施設の行き来を可能とする一体的な空間の整備と機能の配置
- 公園及び展望テラス、MICE・ホテル複合施設内のデザインに統一感を持たせることによる先導空間全体の質の向上
- 先導空間整備後の機能や空間の一体的、多面的な利活用について、関係者間で検討



<地下接続>



<展望テラス イメージ>



■ 先導空間整備の想定スケジュール

令和2（2020）年度にこぐま座・中島児童会館の再構築や公園部分の整備に関する検討を深め、「先導空間の整備方針」を確定させます。先導空間の整備については新MICE施設が供用開始となる令和8（2026）年度末（予定）までにすべての整備を終えることを目標とします。

|              | 令和元年度<br>(2019年度) | 令和2<br>(2020) | 令和3<br>(2021) | 令和4<br>(2022) | 令和5<br>(2023) | 令和6<br>(2024) | 令和7<br>(2025) | 令和8<br>(2026) |
|--------------|-------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| MICE・ホテル複合施設 | 設計<br>各種手続        |               |               | 工事            | ホテル棟竣工●       |               |               | MICE棟竣工●      |
| 先導空間         | 基本<br>構想          | 方針<br>確定      |               | 協議・設計・工事      |               |               |               | 事業完了●         |